

デザイン科学講座

2010年4月10日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「デザイン科学講座」が開催されました。本活動は、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会(DTM)、日本機械学会 Design 理論・方法論研究会、日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会との連合による主催、慶應グローバルCOEの共催により行われました。

午前の部では、はじめに、松岡より、現在までのデザインの文脈とその課題を受けて必要とされるデザイン科学の枠組みに関する講演が行われました。つぎに、佐藤浩一郎先生(慶應義塾大学)より、デザイン科学の基盤となる多空間デザインモデルならびにそれに基づく創発デザインシステムに関する講演が行われました。

午後の部では、はじめに、氏家良樹先生(慶應義塾大学)より、場の概念に基づく形状生成法やデザイン過程に着目したデザイン手法の研究に関する講演が行われました。つぎに、北村武士氏(日産自動車)ならびに林田崇氏(スズキ自動車)より、自動車開発における様々な課題の多空間デザインモデルにおける位置付けに関する講演が行われました。さいごに、伊豆裕一氏(東芝)より、スケッチによる発想支援をテーマとする新しい教育法に関する講演が行われました。

本活動には、デザインに関わる研究・教育者の方々(埼玉大学、千葉大学、文化女子大学、慶應義塾大学、Monterrey Institute of Technology and Higher Education)、実務者の方々(スズキ、東芝、日産、日立、マツダ、GKテック、U'eyes Design)、学生を含む約30名の方にお越しいただき、デザイン理論・方法論やそれに基づく研究・実務の詳細に関する様々な議論が行われました。ご参加いただきました皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



綿貫啓一先生によるご挨拶



松岡による講演の様子



伊豆裕一氏による講演の様子



氏家良樹先生による講演の様子



北村武士氏による講演の様子



会場の様子